

川村龍俊さんメモ（2008.7.14）

< 幹部会で音読を始める前に、講師の川村さんが話した内容（要旨）です >

幹部であるからには、部下の教育が最も重要だ。

会社で何か起こった時に同じ品質を維持することができるか。

会社そのものを維持することができるか。

組織というのは、常に同じ水準を維持できるようにしておかなければならない。

これは自分にしかできない、あの人にしかできないという分野があってはダメだ。

あらゆる仕事について、それをバックアップできる、任せられる人を育てていかなければならない。さらには、その人たちをローテーションできる体制づくりが必要だ。

コンティンジェンシープラン（緊急時対応計画）は環境の変化に対応して進化する。

例えば、番組作りの尺度が3年前と同じではいけない。

どういう未来になっても生き残れるものであるか、点検しなければならない。

組織は往々にして強者、または強者のグループの意見が通りやすい。

強者とは仕事ができるとされている人、バックに有力者がついていて目されている人、声の大きい人など、さまざまなケースがある。

しかし、強者とみなされる人が「これでやる」と決めることは危険である。

強者の意見が間違った場合、会社が沈没することだってあり得る。

弱者のつぶやきが、変化の一端をとらえていることもある。

小さな声に耳を傾けることは、とても大事なことだ。

テレビ局の本来業務は番組づくりである。

福島放送の売り上げのほとんどは広告収入だが、作っている番組は広告代理店向けではない。視聴者向けである。この顧客との“ねじれた関係”がテレビ局の特徴だが、どちらを大事にしなくてはいけないかと言えば、当然、視聴者第一である。視聴者が見たい番組を作れば、売り上げは自然についてくるはずだ。

いい番組を作るためには、出演者がいい状態で仕事ができなくてはならない。

幹部の皆さんは出演者（部下）が一番いいパフォーマンスをできるように心を砕いてほしい。今回の音読は、出演者がふだんカメラの前で、人前でどれだけ大変な思いをしているのかを知る、いいきっかけにもなるのではないか。

そして音読した後、どういうつもりでやったのか、一言説明してほしい。

それでは、一番いいパフォーマンスを見せてください。

以上